



安達太良

ADATARA AREA

火山の歴史が織りなす風景

1. 赤茶の地面に刻まれた噴火の歴史
2. 静まり返る月面 沼ノ平
3. 花の百名山 安達太良山 福島県の県花ここにあり

安達太良の火山を味わう

4. 良泉を求めて山の中まで
5. 温泉を支える「湯守り」という生業
6. 東北で一番登られる山の理由

麓を潤す、ふるさとの山の恵み

7. 安達太良山の風と水がつくる酒
8. 二本松の礎を作った二合田用水は、今なお水田を潤し続ける
9. 時代を越えて人の心に描かれ続ける山

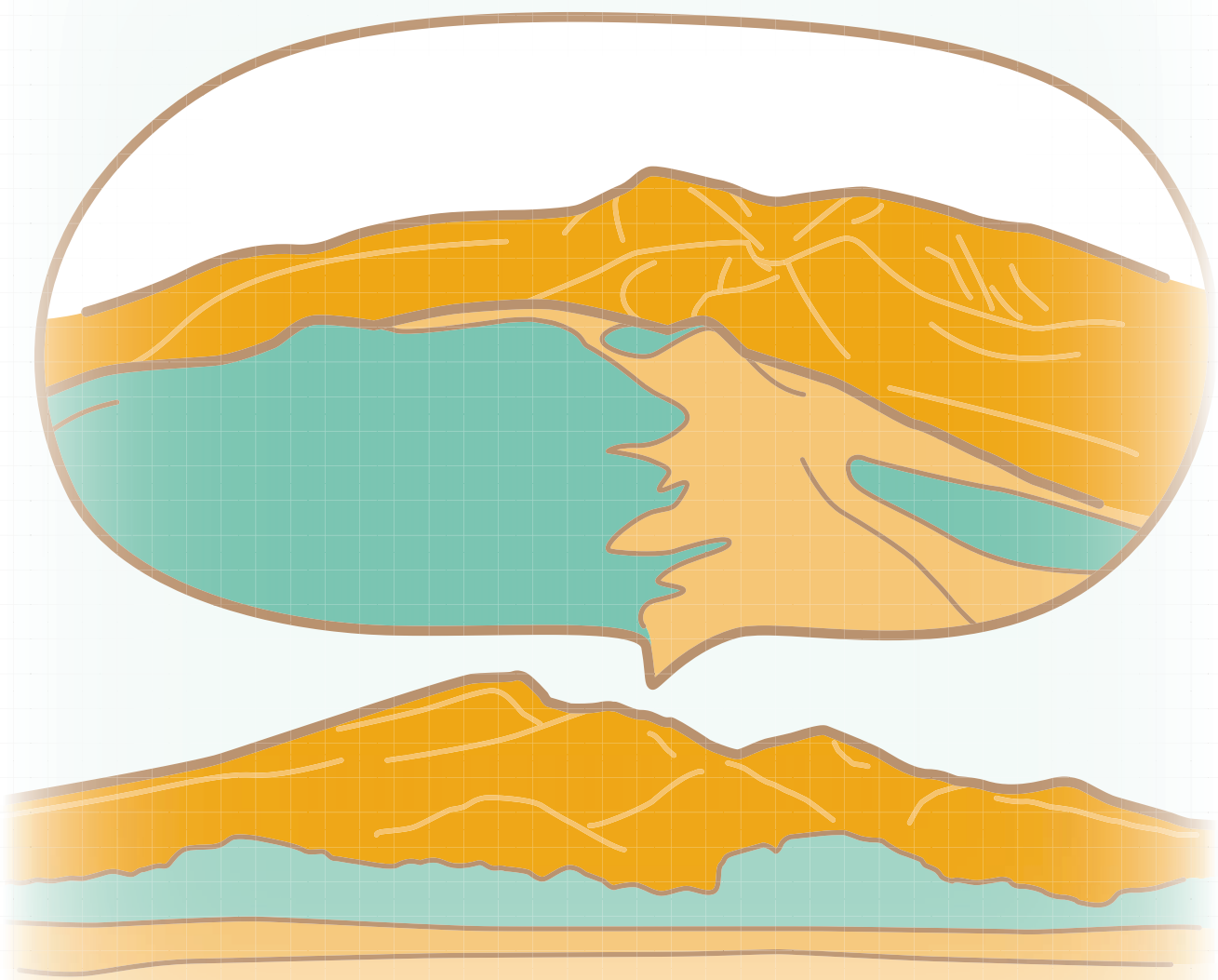


火山の歴史が
織りなす風景

赤茶の地面に刻まれた 噴火の歴史

安達太良連峰は南北約9キロにわたって続く火山で、ゆるやかな稜線が広がる東側と、荒涼とした景観が際立つ西側という、対照的な表情を見せています。火山活動は約55万年前に始まり、現在も火山活動が続いています。裾野から山頂にかけては、約50万年前、30万年前、20万年前、12万年前、そして約2400年前の噴出物が層状に重なり、含まれる成分の違いによって赤(鉄が酸化)や茶色などの色合いを示します。

ADATARA AREA 1





オススメの場所や体験

01 自然/ 東側から見る なだらかな姿

安達太良山の東側は度重なる噴火の際の溶岩によってつくられた溶岩台地が広がっており、なだらかな稜線が続きます。

■ 東側から見た安達太良山



02 自然/ 西側から見る 荒涼とした姿

山体西側は、沼ノ平に代表される荒涼とした景観が際立ちます。沼ノ平の山肌は、月面を思わせるような別世界の様相を呈しています。

■ 沼ノ平



03 見る/ 薬師岳パノラマパーク

山頂駅から徒歩5分にあるビュースポットで、一面が青い空と雄大な安達太良連峰を展望することができます。ここには、高村光太郎の詩集「智恵子抄」に登場した「ほんとの空」の記念碑が立っています。



04 見る/ 赤と茶の斑を見せる 牛の背登山道

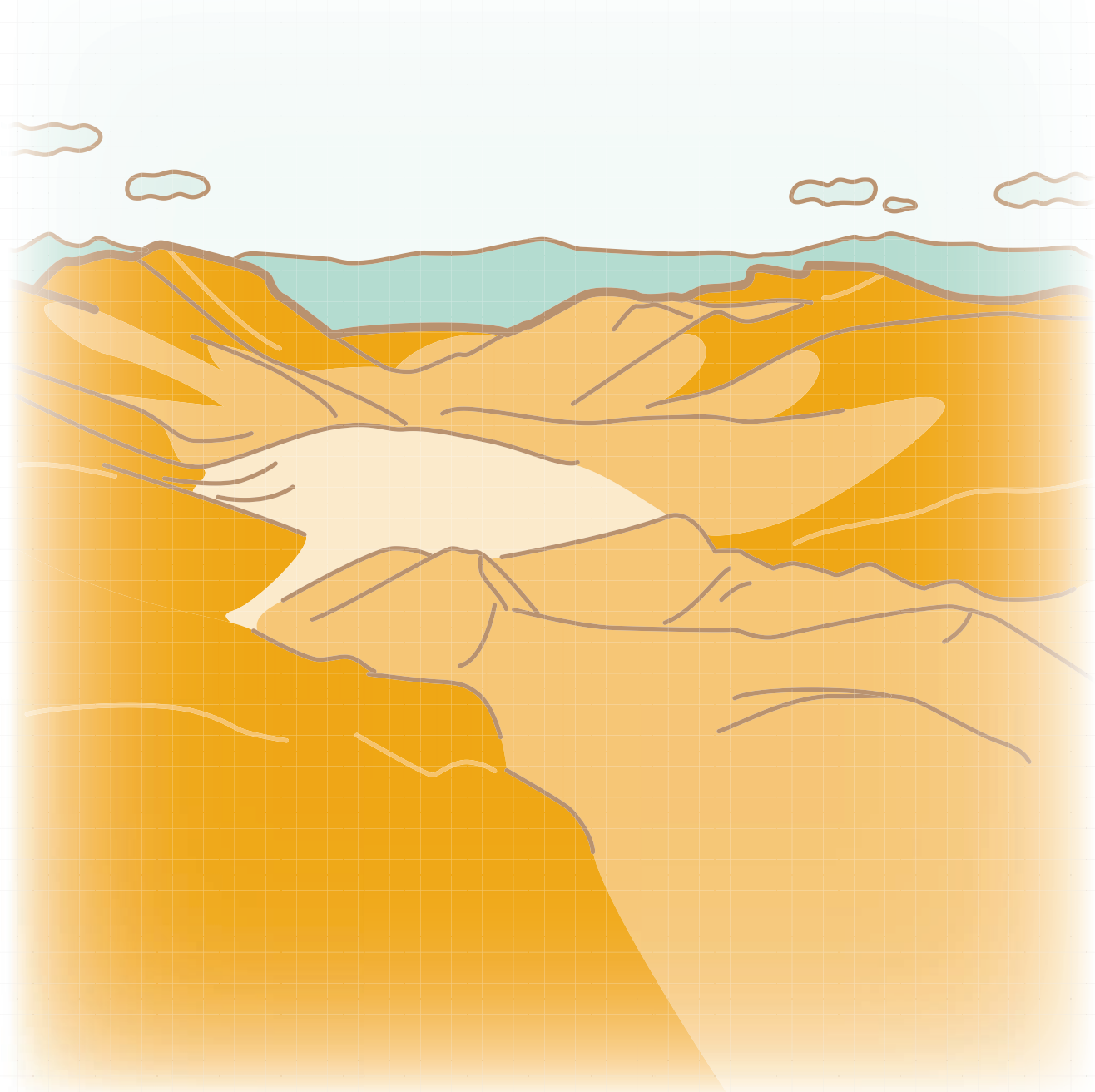
安達太良山頂からすぐの稜線「牛の背」の登山道では、赤と茶の地面を確認することができます。噴火の年代によって鉄分を多く含む噴出物（赤色部分）、少ない噴出物によるもの（茶色部分）です。牛の背では身近に噴火の足跡を見ることができます。



火山の歴史が
織りなす風景

静まり返る月面 沼ノ平

安達太良山の沼ノ平は、白茶けた岩肌が広がる荒涼とした爆裂火口で、月面を思わせる絶景が広がります。ここでは過去に火山ガスによる事故が発生しており、火口内への立ち入りが禁じられていますが、見る者を圧倒するその荒々しさは、畏怖の念とともに強く心を揺さぶります。この静まり返った絶景は、今なお活動を続ける活火山の恐ろしさを静かに物語っています。





オススメの場所や体験

体験/



沼尻登山口からの登山

猪苗代町の沼尻スキー場にある登山口。沼尻温泉・中ノ沢温泉の源泉地帯を通り、荒涼とした沼ノ平火口の火口壁を歩いて安達太良山頂を目指します。沼ノ平火口をぐるりと一周することができ、活火山である安達太良山のダイナミックな景観を満喫できるコースです。

■登山道沿いに見られる絶景



©Adatara Azuma Nature Center

自然/



沼ノ平（爆裂火口跡）

安達太良山・沼ノ平（ぬまのだいら）は、1900年の爆発的な噴火で誕生した噴火口です。当時の噴火は火口付近の硫黄精錬所を倒壊させ、多くの犠牲者を出しました。植物を寄せ付けない赤褐色の大地と、剥き出しの白い岩肌が織りなす光景は、まさに「月面」を彷彿とさせます。なお、現在も有毒ガスが発生している箇所があるため、一部の登山道は立ち入り禁止となっています。



©Adatara Azuma Nature Center

自然/



白糸の滝

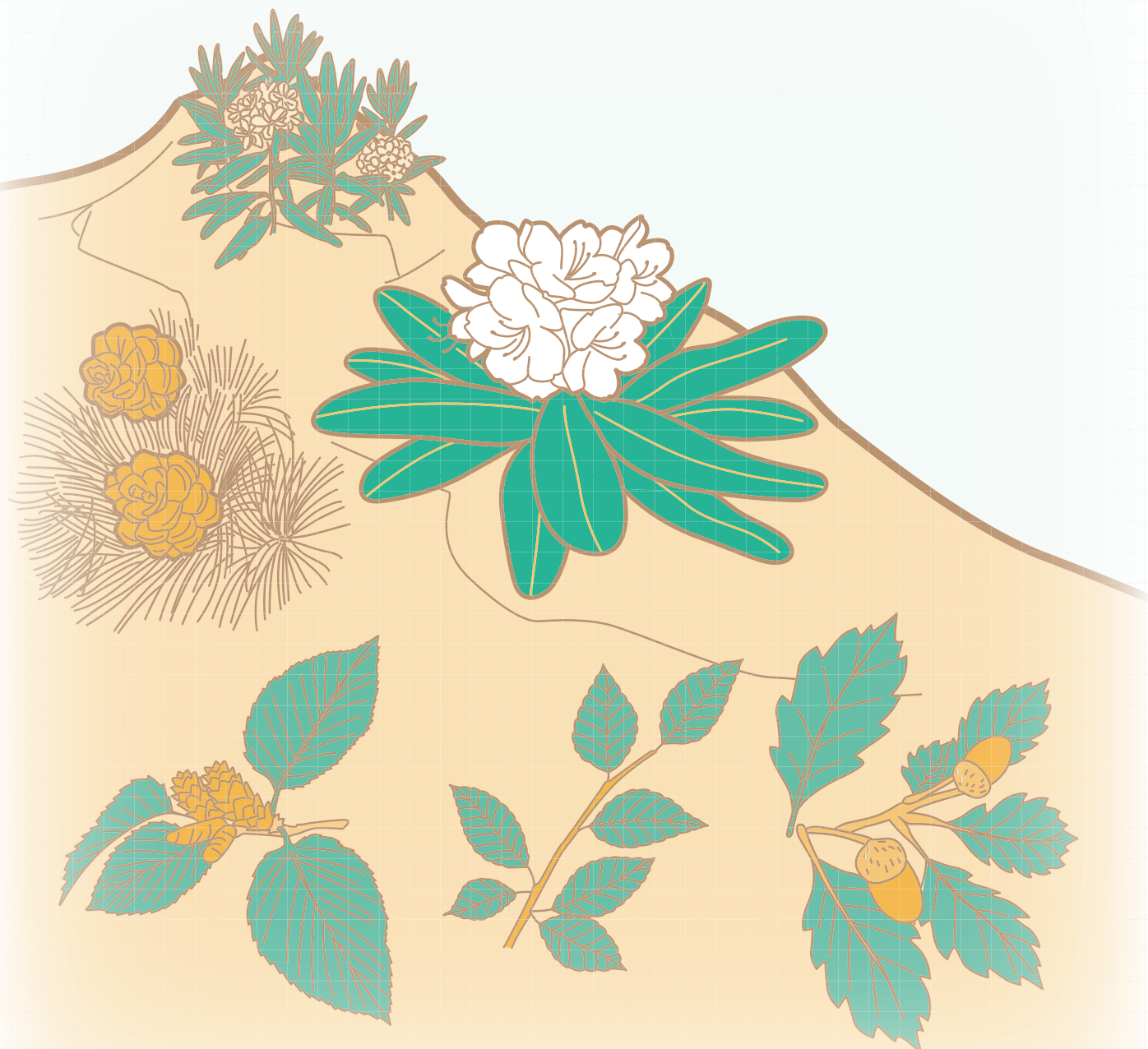
安達太良山の沼尻登山口から徒歩約5分程で着く展望台から見ることで、安達太良山から押し出された溶岩が断崖を作り、硫黄鉱山の跡地から湧き出た温泉水が一筋の湯の滝になって流れ落ちています。周りの紅葉とのコントラストが見事な紅葉の名所です。



火山の歴史が
織りなす風景

花の百名山 安達太良山 福島県の県花ここにあり

花の百名山に選ばれている安達太良山の山頂までの道のりには、亜高山・高山の花々が咲き誇ります。中腹には福島県の県花ネモトシャクナゲが自生しています。山腹では、標高の高い場所にキタゴヨウやダケカンバ、少し下るとブナ、その下にはコナラが広がり、標高ごとに異なる自然が見られます。動物も標高に応じて姿を変え、山岳部ではイワヒバリやホシガラス、中腹ではヒガラやコルリ、山麓ではツグミやニホンリスなどが見られます。





オススメの場所や体験

＼自然／



ネモトシャクナゲ

(ヤエハクサンシャクナゲ)

安達太良山に自生する八重咲のハクサンシャクナゲです。ハクサンシャクナゲは本州の高地や北海道に生育していますが、八重咲は大変珍しいとされています。県の天然記念物に指定されており、安達太良山の大群落はとても貴重です。



＼自然／



イソツツジ

高山、亜高山帯の岩礫地や湿った草地に生育する、安達太良山が分布の南限の常緑小低木です。枝先に小さな白い花がまりのように固まって咲く姿は、とても可憐です。



＼自然／



ホシガラス

体の白い斑点が星空のようにも見えるホシガラス。安達太良山で好物の松ぼっくりを突いている姿が良くみられます。その姿はまるでリスのよう？



＼自然／



ニホンリス

岳温泉観光協会のロゴマークにも使用されているニホンリス。岳温泉周辺のほか、安達太良山の奥岳登山口に向かうまでの道中などでもよく目撃されています。

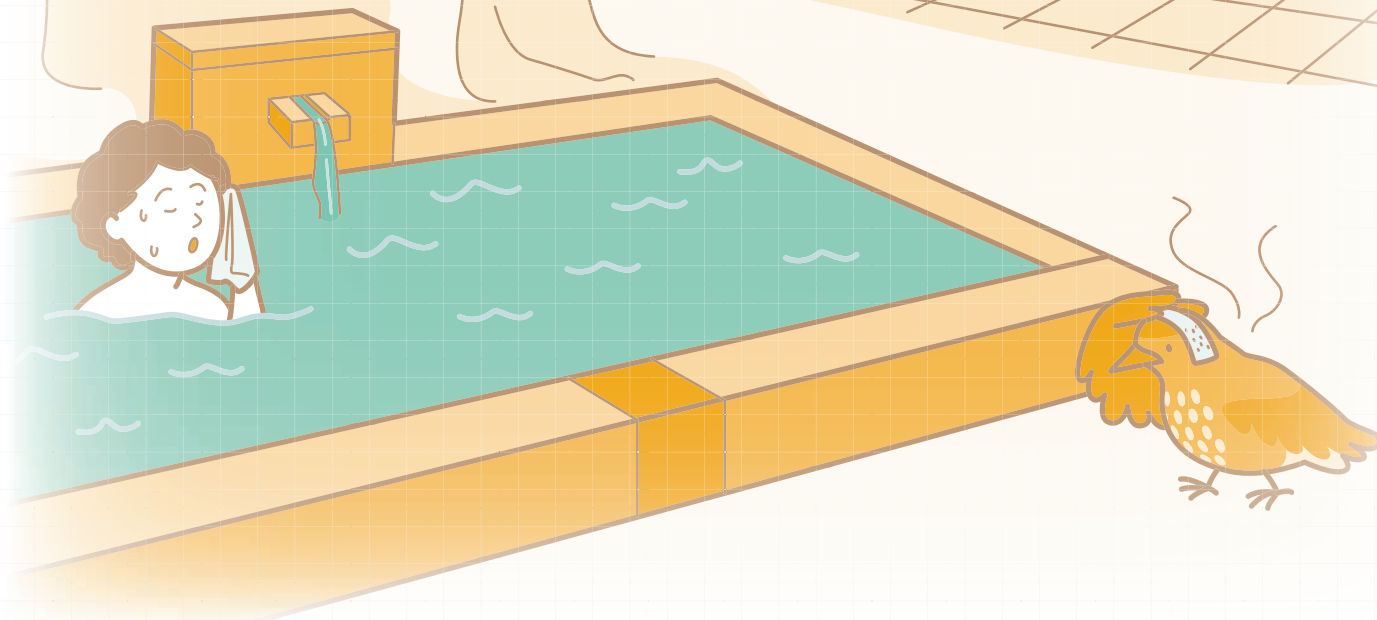
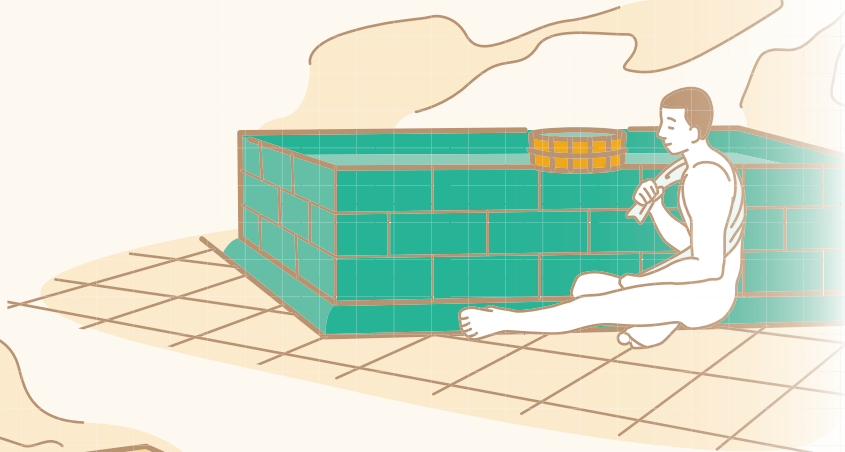
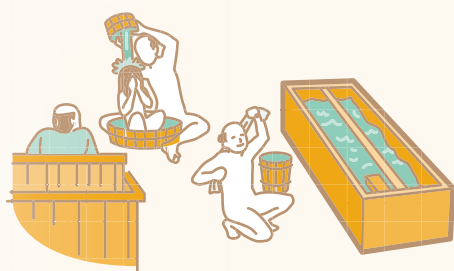


photo: 荒尾一樹

安達太良の
火山を味わう

良泉を求めて山の中まで

岳温泉は平安時代の「小結温泉」に始まり、江戸時代には安達太良山の標高1500mの位置に温泉街として整備されました。しかし、土石流や戊辰戦争、大火などで幾度も全焼・移転を経験します。1906年の地元有志による再建、1923年の引き湯によって現在の岳温泉が形づくられました。直近では、東日本大震災で源泉が埋まった際も、温泉の方々総出で掘り起こして復旧。幾多の困難を乗り越えた歴史が、今日の癒しの湯につながっているのです。





オススメの場所や体験



©Adatarā Azuma Nature Center

歴史/



くろがね小屋

岳温泉はその昔、「陽日(ゆい)温泉」と呼ばれ、現在のくろがね小屋付近にあり、にぎやかな湯治場として栄えていました。

標高1400mの源泉近くにあるくろがね小屋は、冬でも人が常駐する温泉付きの山小屋として親しまれています。現在は建て替え工事中で令和10年に完成予定、準備を進めています。



参拝/



岳温泉神社の 甲子大黒天

甲子大黒天は開運福德・商売繁盛などの御利益があるとされ信仰を集めています。岳温泉の移転に合わせて3度建立されており、現在も残っています。陽日温泉時代のものは1804年に、十文字岳温泉のものは1864年に、最も新しい現在の岳温泉のものは1984年に建立されました。



温泉を支える
「湯守り」という生業

岳温泉は全国的にも珍しいpH2.5の酸性湯を楽しめます。源泉は岳温泉から約8km離れた標高1400mのくろがね小屋近くに15か所あり、40分かけて温泉街へ引かれています。湯守は源泉管理やパイプ点検、作業道整備などを通年で行い、温度調整や湯花の掃除(週に一度だけの「湯花流し」)を行います。湯花流しでは透明なお湯が乳白色に変わるため、週に一度だけ「ミルキーデー」として楽しめます。冬でも雪の中で作業を続ける湯守は、温泉の品質と地域文化を支える重要な存在です。





オススメの場所や体験



文化/



湯守り

01

安達太良山の源泉から温泉街までお湯を届ける「お湯の番人」です。源泉の管理を行い、温泉の量や温度を適切に保つ源泉の混合や、パイプの湯垢除去なども担当します。1200年の歴史を誇る岳温泉の伝統を守り続ける職人です。



温泉/



ミルキーデー

02

湯守が週に一度、源泉地帯で「湯花流し」を行います。こそげ落とされた湯花によって乳白色になった源泉は、麓にある岳温泉まで届きます。そのおかげで、各施設ではミルキー風呂を楽しむことができ、硫黄の香りも普段より強く感じられ、温泉気分を一層盛り上げてくれます。



ミルキーデー情報サイト

ミルキーデーは右記SNSでお知らせしています。



X



Facebook



Instagram



お問い合わせ
岳温泉観光協会

0243-24-2310

受付時間 9:00~17:00
定 休 12月31日~1月3日

東北で一番登られる山の理由

安達太良山(標高1,700m)は、東北で最も多くの人々が登る山(2025年YAMAP)です。人気の理由は、「手軽さ」と「本格的な山の魅力」が共存している点にあります。ロープウェイを利用すれば気軽に高所までアクセスでき、初心者でも気軽に火山の雄大な展望を楽しめます。一方で、沼ノ平の荒涼とした火山景観や縦走路など、中・上級者向けの多彩なコースも充実しており、経験や目的に応じた登山が可能です。さらに湯量日本一を誇る中ノ沢温泉などの山麓の温泉地と組み合わせた、登山と癒しの体験ができることも、多くの人を引きつける大きな理由となっています。





オススメの場所や体験

文化/



安達太良山山開き

毎年3000人以上が参加する山開き。もともとは修験者や山伏など一部の人しか立ち入ることのできなかった山に、一定期間登山規制を解除し一般登山者の入山を許可することを、山の神様にお伺いを立て、安全祈願をするための儀式だと言われています。



体験/



安達太良登山

奥岳登山口からあだたら山ロープウェイを利用すれば初心者でも登頂可能で、溪谷沿いや縦走、火山景観を楽しむ中上級者向けコースも充実。雪山登山や沢登り、山スキーも楽しめます。山頂からは吾妻連峰や磐梯山、飯豊連峰、猪苗代湖、裏磐梯の湖沼など360度の大自然が広がります。



温泉/



火山がつなぐ、歩く物語 磐梯・吾妻・安達太良 ボルケーノトレイル®

磐梯・吾妻・安達太良ボルケーノトレイル®は、火山活動が生み出した地形や風景、人々の営みの歴史を体感できるロングトレイルです。噴火の痕跡や多様な植生、温泉文化など、この地ならではの魅力を、自らの足でたどりながら読み継いでいきます。現在は全体構想のうち東側区間となる高湯温泉～岳温泉までの約72kmにおいて公式マップを整備。今後は各エリアのストーリーとともに、順次ルートの拡張を進めていきます。



©Adataara Azuma Nature Center

麓を潤す、
ふるさとの
山の恵み

安達太良山の風と水が作る酒

安達太良山東部は福島県有数の米作地帯です。雪解け水の伏流水が流れ込む河川と、「あだたらおろし」による昼夜の寒暖差が、良質な米づくりを支えています。この恵まれた自然環境を生かし、大玉村では高品質な米を「あだたらの恵」としてブランド化しています。さらに、伏流水と厳選された酒米による日本酒づくりも盛んで、二本松市内にはいくつもの酒蔵があります。製造される酒は、国内外の品評会で受賞するなど、その品質は高く評価されています。





オススメの場所や体験

産業/



西谷棚田

01

二本松城のふもとにあり、安達太良山のすばらしい景色を展望できる西谷棚田。令和4年に「つなぐ棚田遺産」に認定。不便さから長く耕作されていなかった棚田を、地元の酒蔵と農家が手を組んで活動し、酒米の山田錦も生産されています。



産業/



あだたらの恵 (ブランド米)

02

「あだたらの恵」は、大玉村が独自の基準を定めて販売するフラッグシップ米です。新しい品種の米ではなく、コシヒカリを中心とした既存の銘柄米で取り組む産地ブランド米です。あだたらの恵の中でも更に食味と整粒に優れたものについては「特等」の称号を冠して販売しています。



産業/



二本松の造り酒屋

03

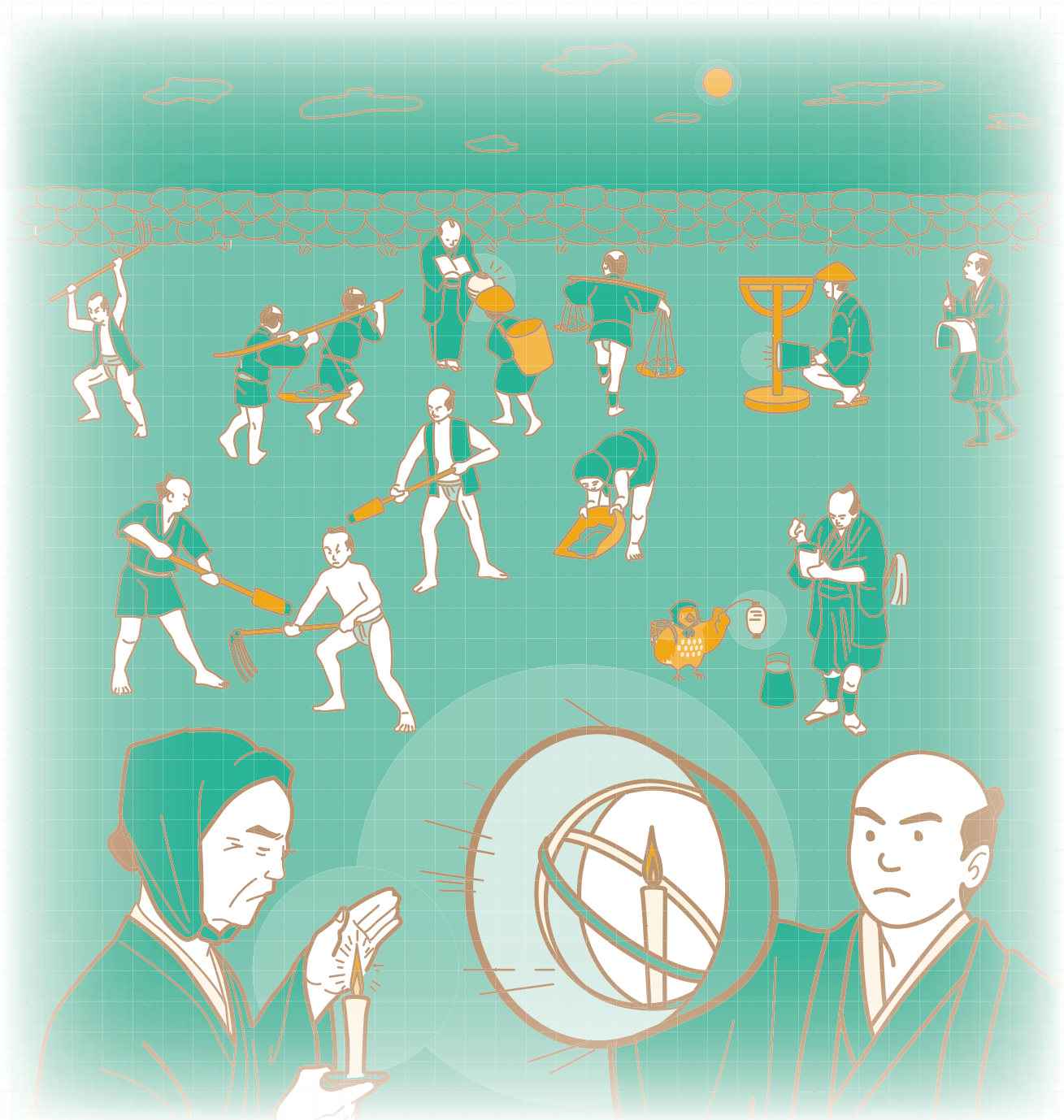
安達太良山の麓、二本松市は県内でも有数の酒どころです。伝統の生もと造りで手間暇かけて醸す「大七酒造」、300年以上の歴史を誇る老舗蔵元の「奥の松酒造」、手造りの吟醸酒のみにこだわる「人気酒造」、地元以外ではほとんど出回らない千功成を作る「檜物屋酒造店」の4軒の蔵元が、それぞれ特徴のあるおいしい日本酒を造っています。



麓を潤す、
ふるさとの
山の恵み

二本松の礎を作った二合田用水は、 今なお水田を潤し続ける

二合田用水は江戸時代、二本松藩初代藩主・丹羽光重が二本松城周辺の水不足を解消するために作った用水です。安達太良山中腹の烏川から全長18kmにもおよぶ水路を建設し、城下町や農地に水を供給しました。この工事は公式文書に記録が残っておらず、幕府に無届の隠し工事であったとされており、夜間に提灯の光を使いながら線香の光で測量するなど困難を伴いました。完成後は城下町の発展や農業・製紙業に貢献し、治水工事などで取水する場所が変わった今も水田を潤し続けています。





オススメの場所や体験



二合田用水の水源であった鳥川

歴史



箕輪門通りの水路

二本松城箕輪門通りには、現在も二合田用水の水路が残されています。この通りは、日本の特色ある優れた道を選出した日本の道100選にも選ばれています。



産業



現在も 農業用水等として利用

現在の二合田用水は、水源を主に岳ダムの水とし、ところどころ改修しながらも、今なお多くの田んぼで利用されています。



歴史



今も歴史を守り続ける

二合田用水を使って田んぼを作っている農家を中心とする「二合田用水路維持管理委員会」が、水路の清掃や補修、草刈り、水の管理など、江戸時代からこの地域に潤いを与えてきた用水路を地域一帯で守り続けています。



麓を潤す、
ふるさとの
山の恵み

時代を越えて人の心に 描かれ続ける山

安達太良山は「万葉集」にも詠まれ、古くから人々に親しまれてきました。また、高村光太郎の詩集「智恵子抄」に登場することでも知られ、安達太良の空は、妻・智恵子が語る「ほんとの空」として描かれています。さらに、安達太良山を題材にした画家も多く、東山魁夷や大山忠作などの日本画家がその姿を描いてきました。

地域の人々にとって安達太良山は、登る人にとっても登らない人にとっても心のふるさとであり、生活や文化の象徴として、今も昔も大切にされている存在です。





オススメの場所や体験

歴史/



万葉集の歌碑

万葉集は7世紀後半から8世紀後半にかけての歌を大伴家持らが編纂した、現存する日本最古の歌集です。収められている約4,500首のうち、安達太良山に関する歌は3首あり、二本松市内にはそれぞれの歌を記した歌碑が建てられています。

■観音丘陵遊歩道にある万葉歌碑



■安太多良の
嶺に伏す猪鹿の ありつつも
我は至らむ 寝処な去りそね

■陸奥の
引かばか人の 吾を言なさむ

■陸奥の
及せらしめ着なば 弦はかめかも
安太多良真弓 はじきおきて
弦はかめかも

見る/



智恵子の生家、 智恵子記念館

智恵子の生家は、明治の初期に建てられました。今も新酒の醸成を伝える杉玉が下げられています。生家の裏庭に建つ智恵子記念館は当時の酒蔵を思わせる外観で、晩年の病の中から生まれた奇跡の紙絵をはじめ、油絵や雑誌「青鞥」の表紙デザインなどが展示されています。



見る/



大山忠作美術館

二本松市出身で現代日本画壇の重鎮、大山忠作の画業65年の功績を顕彰するために開館しました。日展作品を中心に、日春展・個展作品や素描など30数点が展示されています。(平成21年開館、二本松市市民文化交流センター3階)



関連メディア

二本松市観光連盟

観光協会
・
DMO等

問合先 二本松市観光連盟

電話 0243-55-5122



NIHONMATSU DMO

観光協会
・
DMO等

問合先 一般社団法人にほんまつDMO

電話 0243-24-7702



FUKUNAKA+（フクナカプラス） こおりやま広域圏観光情報サイト

観光協会
・
DMO等

問合先 こおりやま広域観光協議会

電話 024-924-2621



郡山へ行こう！

観光協会
・
DMO等

問合先 一般社団法人郡山市観光協会

電話 024-954-8923



猪苗代観光協会 猪苗代・磐梯

観光協会
・
DMO等

問合先 一般社団法人猪苗代観光協会

電話 0242-62-2048



岳温泉観光協会

観光協会
・
DMO等

問合先 岳温泉観光協会

電話 0243-24-2310



安達太良・吾妻 自然センター

ビクター
センター

問合先 安達太良・吾妻 自然センター

電話 090-7171-0350



たまちゃん（大玉村観光協会）

観光協会
・
DMO等

問合先 大玉村観光協会

電話 0243-48-3131(代表)



浄土平天文台

観光協会
・
DMO等

問合先 浄土平天文台

電話 0242-64-2108
(磐梯吾妻スカイライン閉鎖期間中は閉館)

